



ほんとおそぼプラス

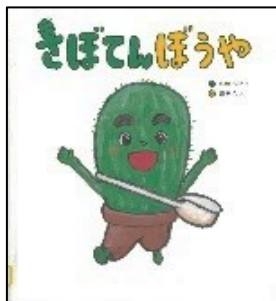
87号 2024年3月27日

おすすめのえほん

『さぼてんぼうや』

石津 ちひろ/文 田中 六大/絵
世界文化ブックス 2023

さぼてんぼうやは妹のはな
ことおまつりへ。はりねずみ
の兄弟と仲よしになって遊ん
でいると、「きゃーっ」とい
う叫び声が…。はっきりした
元気な絵で、小さい人から楽
しめます。(T)



『ひこうきにのろう』

バイロン・バートン/作 なががわ ちひろ/訳
好学社 2023

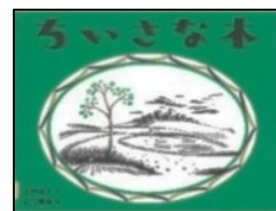


すかっとした青空に白いひこ
うき。ここは空港。いろんな仕
事をしている人がいる。そうし
て、準備完了すると、ひこうき
はとびたつ。

ああ、ひこうきにのりたくな
る。(H)

『ちいさな木』

角野 栄子/作
佐竹 美保/絵
偕成社 2023



木が歩けると、あなたは、思いますか？
思いませんよね。このお話のちいさな木も、
そう思っていました。

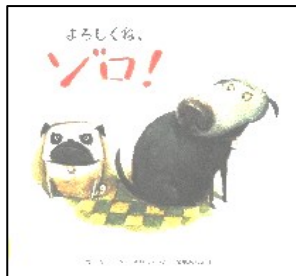
ところが、やってみたらできたのです、
歩けたのです！(A)

『よろしくね、ゾロ!』

カーター・グッドリッチ/作 橋本 あゆみ/訳
化学同人 2023

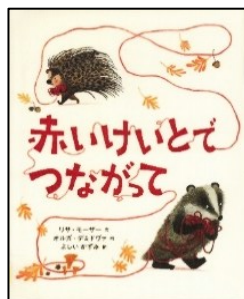
犬のバッドはごきげんにくらし
ていた。人をつきあわせて、こ
だわりの日課もおのぞみどおり。

ある日、新入りがやってきた。王
様きどりで、気の合わないヤツ！と
思っていたら…。(TY)



『赤いけいとでつながって』

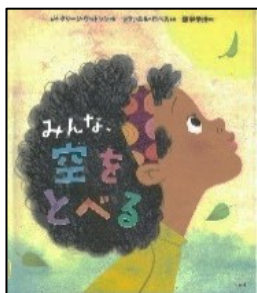
リサ・モーザー/文 オルガ・デミドヴァ/絵
よしい かずみ/訳 BL出版 2023



森で見つけた赤い毛糸はせっせ
と編んでもスルスルほどけてしま
う。あなぐまのアニーとやまあら
しのチックルは仲良し。ところが、
赤い毛糸をめぐって二人の友情に
危機が…。(S)

『みんな、空をとべる』

ジャクリーン・ウッドソン/作
ラファエル・ロベス/絵 都甲幸治/訳
汐文社 2023



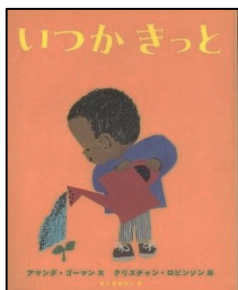
作者は、心の自由を失わなかった
アメリカ黒人の民話から、空のとび
かたを学んだという。

想像力をつばさに「人は空をと
べる」という古い知恵から生まれた希
望の絵本。(KW)

『いつかきっと』

アマンダ・ゴーマン/文
クリスチャン・ロビンソン/絵
さくま ゆみこ/訳
あすなろ書房 2023

ごみだらけの街角。みんな「ど
うしようもないことさ」と言うけ
ど、なんだか悲しい。そこにタン
ポポの花が咲いたよ。ちょっぴり
希望がある気がしてきた。みんな
でかえてみようよ。(M)



『まいごのモリーのおかいもの』

こまつ のぶひさ/文 はた こうしろう/絵
童心社 2023

モリーは今日もまいごになって
います。でも、いいことを思いつ
きました。いつもいっしょのわに
のかばんをふくらませて、空へ…。
お母さんは見つかるかな？ 作者
は、香美市在住。

(KI)



『たべるぞたべるぞ』

田島 征三/作
佼成出版社 2023



たべるぞたべるぞ! やぎも人も鳥も虫もイノシシも魚も、みんな一生懸命食べる。高知県で幼少年期を過ごした田島征三さんが命のエネルギーを描く。読んだら食欲モリモリだ! (JY)

『すこしとおくへ』

おおち くにひろ/作
きくち ちき/絵
あかね書房 2023



犬のクロとぼくはいつもいっしょ。くさはらであそんでいると、急にクロがはしりだした。ぼくは自転車でおいかける。線路をこえ、橋をこえ、いつもよりすこしとおくへ冒険… (Y0)



『おとうさんをかして』



ホ ジョンユン/文
チョ ウオニ/絵
古川 綾子/訳
岩崎書店 2023

おとうとは、おとうさんが死んで、やきゅうをしなくなった。姉のわたしは、ちかくにすんでいるともだちにたのんだ。「おとうさんをかして」と。(AK)

おすすめの物語

『たんていくまたろうとちょうせんじょう』

さかまき ゆか/作 あかね書房 2023

文学の香りほのかな低学年向き

ある日のこと、あわてた様子で飛び込んで来たのは依頼人のほわじろうです。シロクマのぬいぐるみが、持ち主のモモコちゃんを捜してほしい! というのです。くまたろうはまず、美味しいコーヒーを淹れ、話をよく聞いてから行動開始。動物園へ。行く先々で手紙の謎を解いてゆくと…。あとは読んでのお楽しみ。(HF)

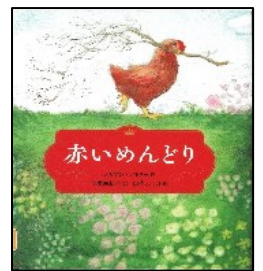


『赤いめんどり』

アリソン・アトリー/作 青木 由紀子/訳
福音館書店 2023

「話し相手がいればいいのにねえ」いつもそう思っていたひとりぐらしのおばあさん、ある晩、一羽のめんどりを助けました。実は、このめんどり、ただのめんどりではありませんでした。

(A)



『猫丸神社のひみつ』

西村 友里/作 ゆーち みえこ/絵
国土社 2023

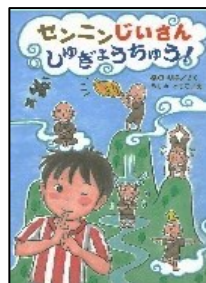


総合学習で調べることになった猫丸神社はぼくの家だ。神社なのにお祭りもおみこしもないし、お札もお守りもない。何もない神社なのだ。猫の猫丸様をまつこの神社のいわれは誰も知らない。まるでわざとみたいに資料がない。神社に現れる白猫も何だか妙だし、猫丸神社には絶対に秘密がある。ぼくたちは謎を探ることにした。

(S)

『センニンじいさんしゅぎょうちゅう!』

横田 明子/作 おしの ともこ/絵
国土社 2023



サッカーのメンバーに選ばれなかったことを、くやしくてパパやママに言えなかったぼく。試合の日、応援なんて行きたくないなあと土手にいると、センニンを名のるおかしなおじいさんに声をかけられた。悩んだらちやうか、とセンニンじいさんは、心がかかるくなるじゅつを教えてくれた。このじいさん何者?

(H)

『ナスレディン スープのスープ』

ジハド・ダルウィシュ/著 松井 裕史/訳
ヨシタケシンスケ/絵 理論社 2023

とんちのきくナスレディンもいれば、まぬけなナスレディンも



アラブ・イスラム圏ではお馴染みのナスレディン・ホジャの短編が64編。にわとりを持ってきたいとこに、ごちそうを振る舞うナスレディン。翌日、いとこの近所の者が、その翌日には、いとこの近所の近所の者が、ご馳走にあずかりにやってきた。さて、ナスレディンが振る舞った料理とは？ 答えはタイトルに。(AK)



『とったんは理学療法士』

茂木 ちあき/作 鈴木 びんこ/絵
国土社 2023



まゆのとったんは理学療法士だ。緊急の連絡が来るとすぐに出かけていくし、一緒に休日を過ごせることなどめったにない。ある日、おばあちゃんがけがをしてとったんの病院に入院した。まゆは、汗をぬぐいながら患者さんのリハビリに付き添うとったんを見る。まゆは、患者さん優先で忙しすぎると感じていたとったんと理学療法士の仕事をほこらしいと思った。(K)

『アンナの戦争』

ヘレン・ピーターズ/作 尾崎 愛子/訳
偕成社 2023

1939年、12歳のアンナは「キンダーtransport」(子どもの輸送)というユダヤ人の子どもの救援活動により両親と別れイギリスへ渡る。広い農場で働くディーン夫妻にひきとられるが、戦禍は美しい田園にも拡がってくる。ディーン家の子もたちと納屋でドイツ兵を見つけ、ナチのスパイだと見抜いたところからアンナの勇敢な行動が始まる。(0)



『ブラックバードの歌』

カチャ・ベーレン/著 千葉 茂樹/訳
あすなろ書房 2023

交通事故にあってからアニーは指が動かなくなってしまい、大好きだったフルートもやめてしまった。そんな時、公園の茂みでノアという少年とブラックバードの巣に出会う。突然の事故でオスを失ったブラックバードのために、アニーはフルートを持ち出して吹き始める。ブラックバードの軽やかで美しい歌声が聞こえてくるような物語。(M)



『ニングル』

倉本 聰/著 理論社 2023



“知らん権利って先生判るかい?” 村では変人で通っているチャバがそう云った。富良野の森の奥深くに住む小人、ニングルは“知らん権利がある!”と云ったと。僕の回りでニングルが見え隠れしはじめる。情報化、自然破壊、膨れあがる欲望、そこからおこる歪みは人間社会だけにとどまらない。約40年前に書かれた本の新装版。(T)

『伝言』

中脇 初枝/著 講談社 2023

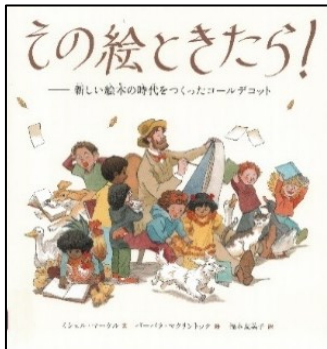


戦時下の満州・新京で生まれ育ったひろみ。「五族協和」。敗戦とともに五族の中の日本人が国を捨てて出ていく。命がけの引き揚げ後、父の郷里高知で知った。満州でかん口令の下、作らされていたものは高知の女学校でも同じだったことを。知ること、伝えること。二度と同じことが繰り返されないよう声を上げてわたしが伝える。(JY)

おすすめのその他のジャンル

『その絵ときたら! 新しい絵本の時代をつくったコールドコット』

ミシェル・マーケル/文 バーバラ・マクリントック/絵 福本 友美子/訳
ほるぷ出版 2023



絵を見るだけで物語がわかる絵本を

絵本画家に贈られる、かの有名な賞に名を頂くランドルフ・コールドコット。その躍動感あふれる絵は、当時の絵本に新しい時代をもたらしました。

彼の人生や人となり、作品を交えながら紹介します。

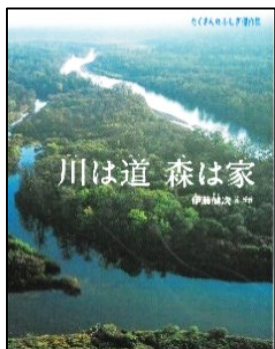
(TY)

『カタリン・カリコ』

増田 ユリヤ/著 ポプラ社 2023

『川は道 森は家』

伊藤 健次/文・写真
福音館書店 2023



北海道の向こうのロシア沿岸にウスリータイガと呼ばれる深い森があります。森と川の恵みと共に生きる動物たちや先住民族の営みを、実際に旅した作者の写真でたっぷり知ることができます。

(N)



社会主義のハンガリーで生まれたカタリンは、豊かな自然のなかで育ち科学の目を養います。苦勞して研究を続け、新型コロナワクチン(mRNAワクチン)を開発し、ついには、ノーベル生理学・医学賞を受賞した女性研究者の物語です。

(N)

『やまをつくったものやまをこわしたもの 山のはなし』

かこ さとし/絵と文 農山漁村文化協会 2023

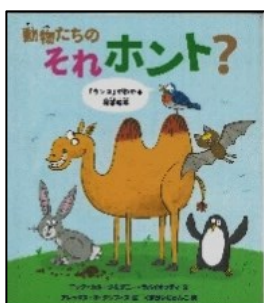


山はなぜ高い?ふとんを足でおしてみると、うねうねまがって山になるよね?それとおなじ。また高くなった山は、雨や風のちからでけずられていく。長い時間をかけて、山のかたちは今でもすしずつかわってきています。

(Y0)

『動物たちのそれホント? 「ウンコ」がわかる科学絵本』

ニック・カールソ&ダニー・ラバイオッティ/文
アレックス・G・グリフィス/絵
くまがい じゅんこ/訳 化学同人 2023



いろいろな動物のウンコについてホント?デタラメ?をあてながらビックリしたり笑ったり。「ペンギンのウンコは宇宙から見える?」なんておもしろい質問の頁をめくると、驚きの答えの頁が出てくる。姉妹本に『動物たちもオナラする?』も。

(KW)



認定NPO法人高知こどもの図書館
選書委員会